862
154

浪華名家墓所集

国立国会図書館　タイトル『浪華名家墓所集』　請求記号 862-154

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『浪華名家墓所集』 請求記号 862-154

ガラス使用

862-154

國立圖書館藏

浪華名家墓所集

正月二日

椎本才麿　元文三戊午年正月二日没　年八十三　墳墓

天王寺椎寺
薬師堂

才麿ハ椎本氏字ハ女文旧徳庵と号す和州宇陀の人ニして浪華ニ住し江北ニ没す初西鶴の弟子となりて西麿と号し後宗因の直弟となる家書千葉集伊丹句合ホあり

三日

浅生庵野坡　元文五年庚申正月三日没　年七十（七十八）　墳墓

豊

國立圖書館
昭 24.3.29 和
寄贈

国立国会図書館　タイトル『浪華名家墓所集』 請求記号 862-154

ガラス使用

天王寺推寺
薬師堂

師鼓ハ越前の人浪華及西國に住て俳諧に名
あり
小橋宝國寺ニ墓有天王寺ニアルハ紀念碑ナルヘシ両碑トモ年七十八トアリ

五日

難波瑞龍寺ニモ墓碑アリ
五竹庵木仙　文化十二年乙亥　正月五日没　墳墓　天王寺東　清寿院
木仙ハ竹上氏初八千房駝岳と号す後に五竹
庵と号す丹州の人浪花に住て東俳諧の達
人なりき

碑文享年六十九トアリ
滴水居士　宝暦十二年壬午　正月五日没　年六十九　墳墓　高津社東　禅林寺
炮術の名家にして俗称中島太兵衛法号曹源
滴水居士

六日

妓女夕霧　延宝六年戊午　正月六日没　墳墓　下寺町　浄国寺
夕霧ハ浪華新町扇屋四郎左衛門の抱にして名
娼なりし事ハ世に知る處なり法号花岳芳春
信女　一説ニ実墓ハ嵯峨の清涼寺ニ在りと云

七日

鉄格子波丸　文化八年辛未　正月七日没　年　墳墓　高津社内　小亭墳之
波丸ハ浪花の人立売堀二丁目に住す西浦氏

狂名糟粕者と号して狂歌を能くして混沌新國丸
北川人にして波丸ハ狂歌者流の名ありて浪華に談
談同庵なりふして春の楊子と號して追放に談
楊子と以て自詠の狂歌集あまた作れる書且
かまこ流も小説草艸双紙の著述ありて俗称木
津屋周蔵

八日

志基高竹様　享保十五年庚戌正月八日没　年五十八

墳墓　谷町寺町　霊鷲寺

竹様ハ秦氏名蕉包と号して浪花の人書を能くし
して妻又書をよくせしとかや

十四日

音曲
國分文珠
元禄十七年正月十二日
下谷町　称念寺
法号法誉浄鑑信士
文珠亭ノ祖なり

菅野重実　元禄十五年壬午正月十四日没　年二十八

摂州豊島郡　菅野名芝村

菅野三平重実ハ摂州豊島郡菅野名芝村の産
なりて先祖より代々此郷に住せし重実十三歳に
して赤穂城主浅野侯に仕へ主君浅野侯卒年を
全くして後に自殺せし洞郭乃義居士と法号せし
天王寺町吉祥寺にも其碑ありて菩提を弔ふ

十八日

国立国会図書館　タイトル『浪華名家墓所集』　請求記号 862-154
ガラス使用

北向道陳 元亀三年壬申正月十八日没 年五十九 墳墓堺南宗寺

本姓荒木氏堺の人也北向の家に住すゆへ北向を以て氏とし茶湯を専らし法を空海に受けて宗易に伝ふ紹鴎没後道陳をかつて宗匠とせし

廿日

澤井穿石［書家］ 安永八年己亥正月廿日没 墳墓高津法雲寺

晩年志津磨と称し松竹堂と号し浪華に住せり

墓碑志津磨と記せり

廿一日

菊川道山 文化九年壬申正月廿一日没 墳墓下寺町超心寺

法家流書家にして名あり俗称喜造といひし菊川二代目なり

佐跡龍雲［画］ 文化五年戊辰正月廿一日没 天王寺西門

廿五日

契沖阿闍梨 元禄十四年辛巳正月廿五日没 年六十二 東高津円珠庵

契沖ハ姓ハ下川氏諱ハ空心摂州尼崎の産也十三歳にして出家し生玉曼陀羅院泉州久井

北里及池田川の側又七里の妙法寺に住を後に東寺浄円操庵に退隠して此にて没す密法に達し皇朝に精しく和歌をよくし著述の書数多あり碑文を五井純禎撰之

蒹葭堂世粛　享和二年壬戌正月廿五日没　年六十七　墳墓

小橋寺町
大蓮寺

字世粛号巽斎なり初メ多吉郎後吉右衛門ト称ス

木村氏名ハ孔恭字巽斎或ハ遜斎ともいふ又世粛と号す俗称多吉郎坪井屋と号す婿姫白に承住し酒造を業とし幼きよりて物産に心をよせ諸奇の薬物をあつめ奇品珍器金石の碑文古人の書画経史詩文諸の書籍百揃あつめると以つらと形し原とて博学にして画をよくしけ実に浪華の一奇人也

廿六日

一本亭芙蓉　天明三年癸卯正月廿六日没　新清水坂下

松濤氏初名ハ栗里後に芙蓉花と改む狂歌を能くす

廿九日

墨江武禅　文化三年丙寅正月廿九日没　年七十三（一云六十七）　墳墓

東天満妙福寺

墨江氏名張覚字全心月と号す浪華の人初め
彫物を業として物を得りて後改業して月岡雪
鼎に従ひ終に画の一家をなせり
延加廿五日

十時梅崖　文化元年甲子　正月廿五日没　年七十三　墳墓
八丁目寺町
正念寺
（朱）没日ハ廿三日ニ又正念寺過去帳ニ年五十六トアリ
名賜字子羽俗称半蔵勢州長島侯文学也書を
灘高に学ふをもって著述の書天臨閣娯観顧亭
書画譜梅崖集抄等あり
二月二日

真淵中州　文化十四年丁丑　二月二日没　年六十四　墳墓
北山寒山寺
真淵氏名達吏字奔貴俗称彦太郎門尾州の人
著を祈の易学の書を著し何を代易学志
の一人にして台灘の妖神の如しと以つて

並木五瓶　文化五年戊辰　二月二日没　年六十三　墳墓
天王寺
西門前
並木宗助の門葉にて天明以来の歌舞伎狂言
作者なり初名ハ吾八と以ひ後に五瓶と改む
浪華の狂言作者にして著を系の狂言数凡百

郷にありし後東都に下りて江戸狂言作京摂
此風に直し名を高くしたり是も東作者の達人之

三日

奈河一洗 天保十三年壬寅二月三日没 年七十九
初篤助と号し奈河七五三助の高弟なり原ハ
泉州一向宗流の僧なりしが還俗して浪華に来り
て狂言作者となる後亀助と改め又一洗と号
す或ハ金亀堂一洗ともいへり著せし書の狂言
数あり老後京師東山の志葛ヶ原に茶店をひ
らき一服一泉と称し法名数達庭といふ

四日

没年ハ天保元年庚寅十一月二日享年六十八

森川竹窓 文政二月四日没 墳墓 小橋寺町大應寺
森川氏名世黄字離吉俗称曹吾と称す岳玉淵
に従ひて書を能くせり高麗橋井池東に住せり

五日

中井竹山 文化元年甲子二月五日没 年七十五 墳墓 八丁目寺町誓願寺
秋風庵の男にして名ハ積善字子慶潔翁と号
す俗称善太

書家
尾崎散木 安永五年丙申二月五日没 年七十四 墳墓

口縄坂
浄春寺

六日

上月専菴　宝暦二年壬申二月六日没　年四十九　墳墓

八丁目寺町
専念寺

鵝州と号し俗称丹花儒家にして医を兼ぬ
著述の書和韓唱和集日本学則徂来学則弁等
あり

七日

茶家
藤村正斎　宝暦五年乙亥二月七日没　年七十二　号東室　墳墓

一心寺

八日

医家
山因南州　明和七年庚寅二月八日没　年六十三　小橋
無量寺

著述傷寒分類証治来蘇医方綱医業集等あり

九日

儒家
河野恕斎　安永八年己亥二月九日没　年三十七　下寺町
光明寺

名子龍字伯潜雀皐と号す又恕斎と号す俗忠
太衛門岡白駒の男也著述洪範孔伝弁正国語
韋注補正韓非子解格致餘録儒医伝亨帝伝等
あり

十日

桂田龍山　文化七年庚午二月十日没　年六十二　小橋天慈寺
著述照顔通聲元和余業年中行事考あり

十一日

月下菴廉山　安永八年己亥二月十一日没　年四十五　相坂一心寺

十三日

坂東由輔　文化八年辛未二月十三日没　西天満播龍寺
武術家にして鎗術を善す法名真岳実道居士

十五日

中井履軒　文化十四年丁丑二月十五日没　年八十六　墳墓八丁目寺町誓願寺
中井竹山の舎弟にして名積徳字處叔俗稱徳
次著述の書七経雕題畧伝疑小史通語擬刑等
擬擬作茅識弊等集にあり

堀泉楽　宝暦五年乙亥二月十五日没　年八十　墳墓下寺町大泉坊

十七日

並木正三　安永二年癸巳二月十七日没　年四十四　千日法善寺
正三も初名久五郎と以ふ並木宗助の門人にして歌舞伎狂言作者の名人なり生涯八十余
番の狂言に患く妙をあらはし浪花乃頓宗

太治門町ニ住せ俗称を吉野屋平太治門と云
菓子店ありて著述の狂言数多あり

廿二日

俳諧 其日庵又斧　文政二年己卯二月廿二日没　年八十三　天王寺仲町 龍泉寺

栗杖亭鬼卯

姓平名昌房字和白遠州日坂の人俗称を初め
河州枝方ニ在し時ハ伊奈文吾といひ浪花ニ
住たし此を大酒蜜用花しく汲む戯作を著して
著述せる処の小説世ニ刊行せるもの数十部
あり栗杖亭鬼卯ハ其戯作の号ありて晩年剃髪
して佛卯と号し袖中更科日記黄昏墳情始巻
等ハ世ニ行ハれて雑劇ニも仕組ひ大当りを取
りたりしと

廿三日

橘保国　寛政四年壬子二月廿三日没　年七十六　高津 久成寺

寺國の男ありて法眼ニ叙せ又ニおとらし画を
善くす描く所の刻本絵本山水詠歌ニありて世
ニ行れる

廿四日

八千坊屋馬　文政十三年庚寅二月廿四日没　年七十六

墳墓 難波瑞龍寺

五竹庵来舊門人也俳諧に名を得て紀州猪山の人なり

玉雲斎貞右 寛政二年庚戌二月廿四日没 年五十七 墳墓 一心寺

姓ハ雄崎氏俗称尼崎屋市之丞浪花の人狂歌を善くす芥川貞佐の門人にして初め名混沌軒國丸と号す後一家をなして門人一千三百人ありしと云世に丸流と称す

廿八日

千利休 天正十九年二月廿八日没 年七十 墳墓 般若寺

初め納屋与四郎と号す堺市の人にして姓は田中氏なり先を室町に住ハて同朋となりて千阿弥と以て因て後千氏に改む抛筌斎と号す

医家 戸田旭山 明和六年己丑二月廿八日没 年七十四 墳墓 口縄坂 法蔵寺

廿九日

橋守行 文化元年甲子二月廿九日没 称左近 年五十四 墳墓 善龍寺

三月二日

林溪斎 寛政三年辛亥三月二日没 年八十三 墳墓 口縄坂 太平寺

三月

儒家にして医業を兼ねて著述の書小学俗解
七巻あることいふ

三日

江田世恭　寛政七年乙卯三月三日没　墳墓　天王寺東清寿院

江田氏は浪花の人俗称富田屋八郎右衛門と
いふ国学にくはしく又書画の鑑定を善くし
世に富八きと云といふ著述の書古葉略彙校
正五月雨日記考等行る

五日

獨嘯菴　明和三年丙戌三月五日没　年三十五　墳墓　天王寺北

東花營菴
姓永富氏名は鳳字は朝陽長州萩の人にて山
脇東洋門人にして医術にくはしく著述の書吐
方考漫遊雑記甲乙篇囊語葆光秘録等あり

十二日

書家
富島瑞岸　正徳元年辛卯三月十二日没　墳墓　濱村蓮花

十五日

北山壽菴　元禄十四年辛巳三月十五日没　墳墓　口縄坂上太平寺

友松子と号す浪花に住す又は清人福州栄宇
馬府君母は日本長崎遊女楢氏安人を代無

般若重右エ門　逆刑
寛延二年三月十四日
そは四国辺の侍人と殺し逆刑せらる

北女らしく　刑死
寛延二年三月十四日
為根済法清寺
本真妙暁信女

双の名医として世時人伝ふ見へたり

中井方明（方住東） 天保元庚寅年閏三月十五日 年四十九 墳墓 一心寺

おそのこ三 情死 寛延二年三月十八日 於日前自害 おその廿二才 こ三 十八才

十七日

五井蘭州 宝暦十二年壬午二月十七日没 年六十六 墳墓 八丁目寺町 実相寺

名純禎 字子祥 洌庵と号し又蘭州と号す 俗称藤九郎 儒業の名家なり 著述 非物篇 蘭州茗話 瑣語篇 古今通源 続語 語勢 語話など

廿二日

鉄眼禅師 天和二年壬戌三月廿二日没 年五十三 墳墓 黄檗 瑞龍寺

名は道光 肥後国の人 親鸞教徒の子なり 本庵の弟子となりて瑞龍寺を開基し 事跡は行実録を世時人伝ふれはくはしく見へたり

堀田自謙 享保九年甲辰二月二日没 年六十七 墳墓 西天満 本伝寺

名頼庸 俗称甚五右衛門 柔術の名あり

廿三日

菅甘谷 明和元年甲申三月廿三日没 墳墓 天王寺 金利寺東

碑文三月廿四日没トアリ

菅氏名ハ晨鼂字子旭甘谷と号す徂徠の門人
ニて詩文ニ長せ浪華ニ来て教授を門ニ入る人
甚多く年久しく浪花ニありて徂徠学を講する事
菅氏より始まるといふ著述の書甘谷遺稿あり又
徂徠集ニ屢子旭又南嶠秀才と称するハこの人
なり

廿四日

間長涯　文化十三年丙子三月廿四日没　年六十一　墳墓　葬白山南邦福寺

間氏俗称十一屋五郎兵衛浪花長堀ニ住せり天
学を麻田先生ニ受け又算術を頭新花ニ学ぶ
天文家の名誉彰る

廿六日

鳥山崧岳　安永五年丙申二月廿六日没　墳墓　北絶根珊瑚寺

鳥山氏名寔哉字世章俗称宇内越前の人京師
ニ来て宇野士朗ニ学び后浪花ニ住して教授
せ続人物志ニ寛政年中ニ没せるとあるハ非
なりよりハ著述の書名流春遊篇批評唐絶句
選詩式垂蔭館詩稿崧岳文集あり

廿七日

田中鳴門　天明八年戊申三月廿七日没　年六十七　墳墓

天王寺中町
龍泉寺

田中氏ハ浪花阿波座園済橋ニ住し金座七左
衛門と呼ふ　請西師取て鳴門槌ニ譲りを以て
鳴門を号とし名ハ章字子門

龍泉寺廃シテ墓碑ナシ今東成郡南郡神寺ニ行山北海ノ文ヲ刻セル碑アリ
竜泉寺ヨリ移セシカ未詳

廿八日

西山宗因　天和二年壬戌三月廿八日没　年七十三　墳墓

天満西寺町
西福寺

西山氏一幽と号し又梅翁或ハ西翁と号して浪
花天満の人連歌を以て俳諧ニ遷し一種異風
を興立して実ニ一流の祖となられ家書数
多あり

早野仰斎　寛政二年庚戌三月廿七日没　年四十五

生玉
隆専寺

名年之字士誉仰斎と号し俗称永輔浪花ニ住
る儒業の名家なりき

中井蕉園撰墓志ニ三月廿七日
没年四十五トス

不二菴二柳　享和三年癸亥三月廿八日没　年八十一　墳墓

口縄坂
梅旧院

又桃居とも呼ふ希因の門人にして古来俳諧
の名家なりき

お房 徳兵衛 情死
宝永元年三月廿九日
お房ハ島の内古町
町重井筒屋若十六
の抱女なり徳兵
衛ハ上野の紺屋之
高津大仏の勧進所
にて心中を南の櫻
過ぎし十二月十五
日の夜の事なりき

お千代 半兵衛 情死
享保七年四月五日
八丁寺町 源光寺
東禅定門 信士 年廿八
日丘妙到信女 年四十

儒家
渡辺長城　文政十年丁亥三月廿八日没　年五十七　墳墓　小橋寺町 浄長寺
名積字真卿

廿九日
早野友堂　天保二年辛卯三月廿九日没　墳墓　生玉 隆専寺
早野仰斎の男なり名ハ正己字子發友堂と号す
を紹称義述儒学の家を継く南堀江吉野屋町
ニ住ス

四月四日
新宮高洲　文政九年丙戌四月四日没　年五十六　墳墓

天満屋お初 情死
元禄十六年四月七日
梅田墓所 大坂ノ辺
妖力信女 十九才

「遊女滅茶」と云ふ書ある
寺町久成寺小蓑の
とうせり浄名院二
十五才お初三十一才
お初ハ天満屋の娘
徳兵衛ハ平野屋の
手代なりけり「お初
手鑑」の心中ハ四
月廿三日とあり

お高 弥市 情死
宝永三年四月「梅田心中」
弥市ハ老松町餅屋
ならぶ年二十六才女
お高根崎新地お花の
抱へなり梅田の墓
地にて情死せ

小橋寺町 梅松院
名翼字士亮通称文平

八日
藤吉木石　寛政九年丁巳四月八日没　年六十二　墳墓　上福島 久安寺
藤吉氏ハ東都の人甞て播州有馬温泉ニ遊ん
として浪花ニ来て頓ニ没ス著述の書楽只園
集あり

牡丹花肖柏　大永七年丁亥四月四日没　年八十五　墳墓　池田 大広寺

四月

姓源氏名資柏菱庵と号し初め池田に住し後
鹿海に寓居す古今伝授の人也に堺流と称し
くさしきハ枝葉隠逸得ふ足へきを達筆の達
人なりき

十二日

長雄旭雲　天王寺東　国分寺　文化十一戌子年　四月十二日没　年五十五　墳墓

書家の名誉長雄流三代目にして俗称を米造
と叫ふ

十七日

徹山居士　相坂一心寺　文政十年丁亥　四月十七日　年六十三　墳墓

観古堂と号し初名武者小路実純卿法号実誠
院殿高入徹山居士和歌の達人なりき

十九日

故雀斎長斎　天満東寺町　蓮興寺　文政七年甲申　四月十九日没　年六十八　墳墓

二十日

高良陶斎　堺南宗寺内　本源院　文政六年丙午　四月廿日没　年七十四　墳墓

国立国会図書館　タイトル『浪華名家墓所集』　請求記号 862-154
ガラス使用

韶氏名蕃字仲顕春也と号す長崎の人或云清
人韶基の子なりと初め僧にして黄檗竺庵の
徒なりと成る帰俗の後四方に周遊し晩年泉州
堺におゐて没す豪邁善書の名一時に響なりき
墨書にして自筆の著述の書あり

廿一日

林一烏 明和五年戊子 四月廿一日没 年八十九 墳墓 口縄坂香

陽新

医術の名家にして世蘇の事跡は生月鹿門の
著さし又玄全州に委しく出たる著述の書あ

中集行之

廿三日

稲津祇空 享保十八年癸丑 四月廿三日没 年七十一 墳墓 口縄坂東 大平寺

稲津氏は浪花の人なりじめ書流と号し宗祇法
師の風流を慕ひ落髪して祇空と号し諸国を
経回し後に敬雨と称す俳諧一家の人之

祇空ノ墓ハ箱根早雲寺ニアリ大平寺ノ碑ハ文墳トアリ

廿四日

狂歌
仙果亭嘉栗 寛政十一年己未 四月廿四日没 年五十三 墳墓

紀上太郎
上太郎とハいふハ三井

南家の主人にて次郎左衛門と云ふ別号を三津環といふ江戸俳ゝ作者として名あり
寛政十一年四月二十四日大坂に歿す年五十三同所生玉西方寺に葬む其碑文ハ皆川淇園の筆なり

生玉南
西方寺
義童勘左郎　延宝五年丁巳四月廿四日没　年十六　墳墓

千日法善寺

勘左郎ハ和州の産にして浪花安土町永来屋
左衛門に仕ふ主の男子に傅き常に諫忠之
主男子此をうけなくして死を勘左衛門なりとて歎
いふ□續に切腹して殉死す実に希代の義童
なりて委しくハ碑文に見へたり行状録著聞集に
行状を詳らかにせり

廿七日

留守退蔵　明和二年乙酉四月廿七日没　年六十一　墳墓
口縄坂
浄春寺
名友信著述の書和學通称以希正ありし(?)

廿九日

俳師
十帰庵華笠　文化八年辛酉四月廿九日没　年八十　墳墓
上福島
妙徳寺

雲應阿闍梨　天明七年丁未四月廿九日没　墳墓
生玉
持宝院
著述の書神道弁惑胡蝶庵蓬莱華木ありし（今院所在不明(?)）

五月朔日

橋本宗吉　伯敏　天保七年丙申五月朔日没　年七十六　墳墓

五月

八丁目寺町
念佛寺
稻村氏ハ蘭学を大槻先生に受てその名世にあり
し名ハ鄭宗ハ伯輯俗称曽右著述の書西洋医
事集成宝函あり塩町心斎橋东に住せ

念佛寺過去帳に七十四歳トアリ

前川有濤　安永九年庚子五月朔日没　年五十四　墳墓
高津
大雲寺

二日

三好正慶　文化三年丙寅五月二日没　年七十八　墳墓
本津
西泉寺

浪花島之内茂左衛門町本津茶屋の茶女なきと
呼もあ或ハ明ち町とも智恵かしこく生質俠気
男子にまさりしを芸者なるに偽りて奴の小万と
なづけしを終に世にうたひし奴の小万と呼を
山陽途稿南冰漫遊明和元日紀事にくはしく見
へたるを右山陽途稿に行年七十五にして没せと
あるハ非形を文化元年子正月の詠に七十六と
ありそ

四日

武術
土肥積家臺　寛政九年丁巳五月四日没　法号　至端居士　墳墓

天下茶屋町
安養寺

五日

浅山蘆國　文政元年戊寅五月五日没　法号叡順法　墳墓遊行寺内

成徳

浪花の人俗称布屋忠三郎須賀林斎に従ひ画法を学ひ浅山蘭英斎と号ス後に狂画に委し芦國とし更に浮世画を学ふにして名を浮世に行年四十余して没す

七日

和歌
有賀長收　文政元年戊寅五月七日没　年六十三　墳墓

寺町
正法寺

水走平岡　文化十二年乙亥五月七日没　年六十三　墳墓

師中通
明洗

阿州平岡の人医術に達し著述の書方花診視要訣病徴方義等あり

橋本貞元　天明四年甲辰五月七日没　年四十六　墳墓

天満東寺町
栗東寺

橋本氏は薫蘭石の門人にして詩文に長し儒家にて医業を兼ぬ著述の書萬氏漫艸小園摘稿等あり

八日

金鳳壷東湜　文化十三年丙子五月八日没　墳墓　瑞龍寺

九日

多田宗匍　宝暦八年戊寅五月九日没　年六十九　墳墓　天満東寺町長徳寺

播州姫路の人浪華に住せる平陽の名家なりし物々斎又余月菴と号し風流一世に鳴りし多田氏の初代にして家表流形を

十日

画家
林逸甫　明和七年庚寅五月十日没　墳墓　田島町妙寿寺

浪華に住せる一鷺菴

湘沙
浦川富天　天和四年丁亥五月十日没　号清得舎　墳墓　八丁目寺町聖林寺

十一日

北山七僧　文化三年丙寅五月十一日没　年八十六　墳墓　天王寺南超願寺

名晧字白甫儒家にして医業を兼ねたり

藤村吉深　元文五年庚申五月十一日没　年六十五　墳墓　一心寺

一心寺墓碑に元文元年丙辰五月十一日トアリ

十二日

おかめ与兵衛
宝永三年五月十七日情死
お亀ハ大坂四ツ橋の遊
里屋の娘年十五
与兵衛ハ平野屋の手代にて
田の妻浮名を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

武楢鳩渓　天保四年癸巳五月十三日没　年五十五　墳墓　口縄坂　浄春寺

武楢氏ハト筮家にして保科の門人なりて吉門に学し通称楢屋何某といふ

十六日

加島白羽　宝暦五年乙亥五月十六日没　墳墓　北野　善通寺

十南砂と号す俳諧の名家之延享中独吟百句を撰し其雄名浪華中に喧る家名数多あり

十七日

（桃沙）八日菴万和　文政十年丁亥五月十七日没　墳墓　天王寺東　清寿院

小倉長吉殺し
元禄二年五月廿九日[illegible]
右三條の為に接死を
天王寺家久右衛門子孫と
あいまみ若町菊吉町
久宝寺ニ石碑を建今ニ
在り

廿日

（東砂）山中松年　文政二年五月廿日没　墳墓　上福島　浄祐寺

廿一日

中井柚園　天保五年甲午五月廿一日没　年五十三　墳墓　八丁目寺

依田新八郎　享和二年壬戌五月廿一日没　宝泉院鏡州七代　年六十三

町領　墳墓　相坂　一心寺

廿二日

麻田剛立　寛政十一年己未五月廿二日没　年六十六　墳墓　口縄坂　浄春寺

廿三日

楽郊児滅宗　明和二年乙酉五月廿三日没　墳墓　上福島妙徳寺
菅楽谷高麗橋本半蔵浪花住

中村白蘇　明和三年丙戌五月廿三日没　年六十四　墳墓　下寺町良運院
俗称加古治門近代無双の観相の名家也六如上人の放生功徳集ニ白蘇か観相ニ妙を得しこと隠徳の奇話一條を録して周防町堺筋ニ住す姓ハ菅原氏にて先江州葛川中村ニ住す

廿四日

西涼一風　享保十六年五月廿四日没　年六十七　墳墓　下寺町大蓮寺
浄瑠璃作者九左衛門、作ん
俗称正本屋九左衛門浪花心斎橋南四丁目ニ住す書林板元なりて性浮俳諧をこのミ浄瑠璃作者を兼しまた著述の浄るり数十巻あり絶中北条時頼記ハ其竹座にて二ヶ年の間無休し近松か国姓爺ニ肩をならべたりて法号常誉貞寂禅定門と称し紀海音田中千柳並木宗助ニハ此人の門弟なり

由良箕山　文化三年丙寅五月廿四日没　年六十八　墳墓

小勧年参勝情死
安永七年六月朔日
女ハ娼良ノ所衆の娘伯母ノ為小芳根浮利米平野氏の悦とふとう年二十二
男ハ備後町鋳物職大和屋利兵衛門の息子にて神の森にて情死せ

堺縣本寺

俗称孫助豊後の人組来流の隠儒にして浪華
に教授を浪堺高三氏の家に於て没せ著述の
書素藩四巻梓刻せ

六月三日

佐々本泉明　寛政五年癸丑六月三日没　年七十八　墳墓　谷町南吉祥寺

俗称佳吉伝布にて浪花四ツ橋に住し薬播と
売て業とし伝布中の隠君子にして和歌俳諧
をよくしけ

お妻八郎兵衛情死
明和四年六月四日
西平野中寺町日蓮宗法性寺
善雄院宗信日道信士
善理院妙喜日宗信女
兄と江戸の鉄砲のお妻とハ兄く別人なり江戸のは伴八延宝二年のこと事なりハ島の傍い家北新町の古着屋と西田屋とハ姉い西本国西横に至る年の情死ハ此ハ妻を殺害して自殺せしなり

下河辺長流　貞享三年丙寅六月三日没　年七十八（一作六十三）　墳墓　大阪里華北

吟叟居士と号し国学者にて和州宇田の
人浪花江戸堀に住し俗称彦六玉造の東大阪
里林に墓所ありし鶴塔氏の華表にへた
とも今廃してなし

八日

（画師）長澤芦雪　寛政十一年己未六月八日没　墳墓　東寺町直指庵

円山応挙門人山城淀の人

直指庵廃して武京トナル今小橋寺町天海院ニ墓アリ

九日

保科加一郎（下笠家） 文政二年己卯六月九日没 年五十五 墳墓 口縄坂 浄春寺

十日

中江岷山 享保十一年丙午六月十日没 年七十二 同 相坂 一心寺

儒学の名家にて伊賀の人 俗称平八 著述の書
理気弁論四書辨論等あり

十一日

鳥山輔寛 正徳五年乙未六月十一日没 年六十一 墳墓 難波 瑞龍寺

字ハ碩夫鳴春と号し俗称左吉 又儒学の名家
なり

十四日

渋井太室 天明八年戊申六月十四日没 年六十九 墳墓 生玉 玄徳寺

著述の書十二部 書名目録倶人物志に詳之

十五日

橋本稲彦 文化六年己巳六月十五日没 年二十九 墳墓 口縄坂 梅旧院

橋本氏ハ中畫と号し又琴を弾じ以て藝州
広島の人なり幼年より國學を好み本居翁の
門に入りて其業を大成す浪花に住し壮年にし
て没す其の顔渕の夭死に比すべく世人惜し
む其著述の書校正新選姓氏録考文製錦考文
清書万葉摘古今訓点並ひ吊陵國意考等ありて
此全刻なりける著述頗る多し

狂方
桂里臺山　文化八年辛未六月十五日没　年五十五　墳墓　清水北坂　泰聖寺

十七日

中井蘭庵　宝暦八年戊寅六月十七日没　年六十六　墳墓　八丁目寺町　藍領寺

名誠之字叔貴號称忠蔵播州龍野の人浪花に住
學校に仕て著述の書不問語蘭庵雑記勝範先
生遠集等行る

十八日

下笠家
平井東陸　文政三年庚辰六月十八日没　墳墓　北所　寒山寺
眞勢門人兵庫と称し

俳諧
十南斎菜雷　安永元年壬辰六月十八日没　旧　日　善通寺

山縣氏東藩高とも号す

十九日

三村崑山　文政八年乙酉六月十九日没　年六十四　墳墓　下寺町光明寺

号福る

儒者にして名ハ其原　称貞造

大岡春卜　宝暦十三年癸未六月十九日没　墳墓　下寺町光明寺

名ハ愛董　崔叱と号ス　狩野氏の法を学て常の師なく　画名時に高し　享ふ今世の名手なりて法眼位に叙せ　浪花松江町に住せり

廿二日

画師
森周峰　文政六年癸未六月廿二日没　年八十四　墳墓　天満西寺町西福寺

廿七日

日
山本如春斎　天明四年甲辰六月廿七日没　墳墓　清水寺坂の下

名典春　西宮の人　栄春斎門人

俳諧
三斗菴古楽　天保八年丁酉六月　年五十七　墳墓　谷町本政寺

木僊門人

狂歌
鬼粒亭力丸　嘉永元年戊申六月十一日没　墳墓　東寺町宝樹寺

七月五日

七月

長賀右門　安永七年戊戌七月五日没　年六十七　墳墓　寺町浄土宗本覚寺

長伯の男にして和歌の名家なり敬義斎と号す
一浪花に住せり

画師
墨江敬慶　文化九年壬申七月五日没　墳墓　妙福寺

墨江武禅の男也

六日

平家
柏木宗右　文政二年己卯七月六日没　年八十六　墳墓　野田極楽寺

号積崖亭

七日

大西閑斎　享保二年丁酉七月七日没　年七十二　墳墓　八丁目寺町欣中寺

片桐石見守貞昌の家臣にして飄々庵宗順と号す貞昌卒去の後退身して浪華に住せり浪花に於て石州流を唱ふる茶術の始祖となりし

栗柯亭木端　安永二年癸巳七月七日没　墳墓　天王寺東門青法寺

貞柳の高弟にして狂歌を善くす浪花一向宗の寺院の住職なりて後一家を成して門人数多あり

佐渡島長五郎
宝暦七年七月十三日
中寺町薬王寺
所作事中興ノ祖なり

十一日

長嶺山人 宝暦十三年癸未七月十一日没 業所門人なりて 墳墓 一心寺

姓ハ牧氏名ハ世儀字升庵俗称新興周平業所の門人ニして書の名家也

十七日

小紫景山 享和元年辛酉七月十七日没 墳墓 下寺町善龍寺

画淙斎と号ス探春斎門人

十八日

五井持軒 享保六年辛丑閏七月十八日没 年八十一 墳墓 天満東寺町九品寺

五井氏名守任俗称加助儒学の名家ニして浪花ニありて教授ス

大口如扇 安永七年戊戌閏七月十八日没 墳墓 八丁目寺町妙中寺

浪華の人大口樵翁の男ニして茶道の名家也

名ハ保敕芳流菴と号ス

十九日

青木宗風 寛政五年癸丑七月十九日没 年六十五 墳墓 下寺町宗念寺

初代宗風の男ニして初め名を宗舒號標軒又

温故斎と号す

廿日

儒医
川井立牧　明和三年丙戌七月廿日没　年五十九　墳墓八丁目寺町西光寺　号桂山

廿一日

森祖仙　文政四年辛巳七月廿一日没　年七十三　墳墓天満西寺町西福寺

森周峰の舎弟にして代々写生の名家なり殊に猿の画に於ては古今に冠たり後年祖仙を狙仙と改む

狂歌
條果亭栗標　寛政六年甲寅七月廿一日没　年六十八　墳墓清水寺北秦聖寺

廿三日

画工
林遊篤　文政二年己卯七月廿三日没　墳墓田島町妙寿寺

中井藍江　天保元年庚寅七月廿三日没　年六十五　墳墓生玉

覚圓院

名ハ直字子蓁聞月の門人雪舟牧渓及ひ李龍眠を学ひて自ら一家をなし人物山水に長し実に当世の名人なりき

覚円院ト称シテ所ニ知レズ名家全書画家評伝トモ字伯蓁ト作ル

稲垣休叟　文政二年己卯七月廿三日没　年五十　墳墓小橋寺町

大應寺

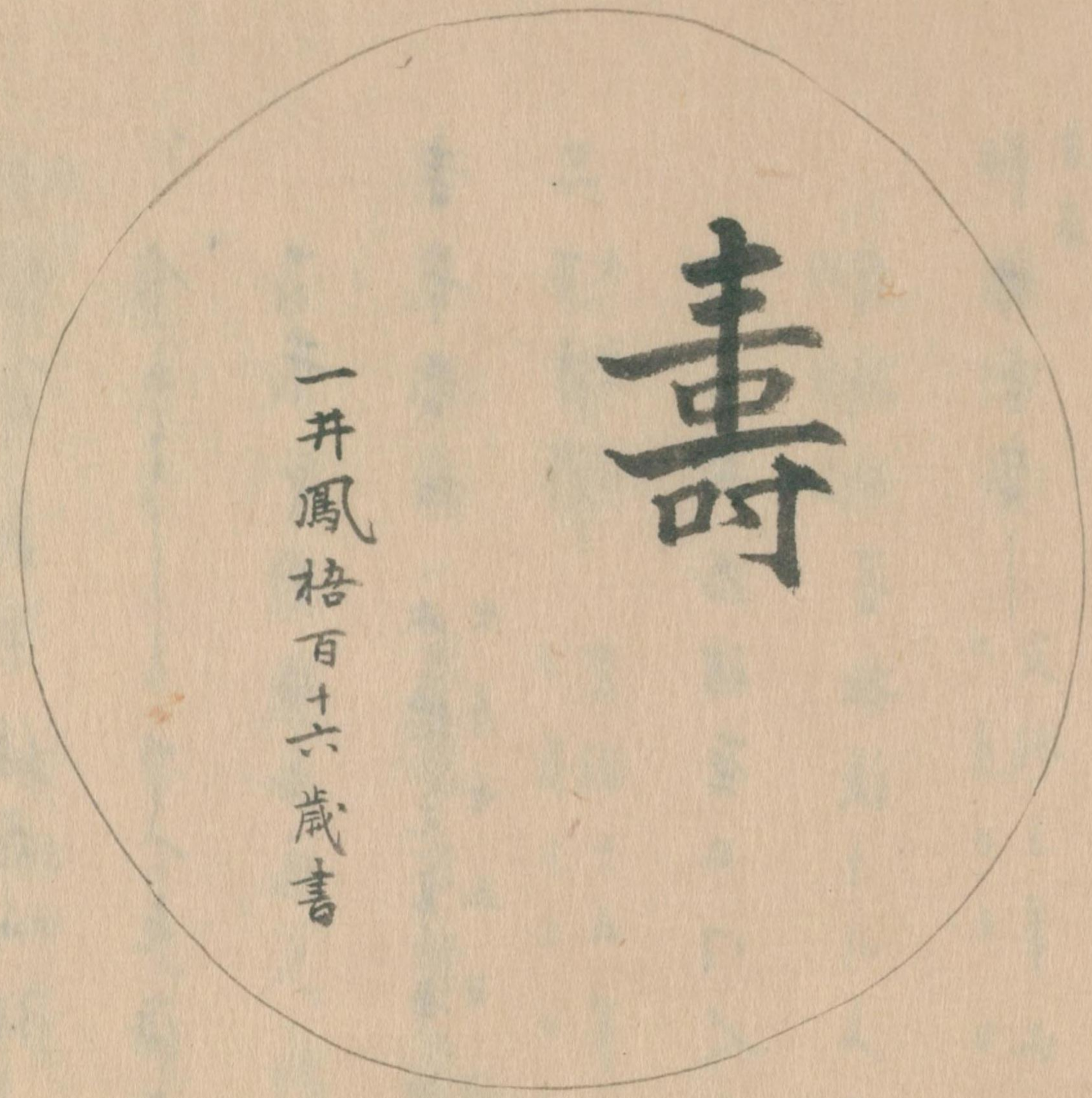
浪花の人〻にして茶道の名家なりき竹浪菴と号
し又點じ而松竹を人〻の翫あり

一井鳳梧壽盃

大サ如図　暁所蒔　深サ糸底高サ二分

惣朱塗

享保十六年鳳梧百十六歳にて妻あり此婦十
六歳なりしも壮健なること抑て知るべし
百なりけて相生年の祝ひし盃



此句を短冊ふ認め盃
ふそへて四方の知己
へ贈られしとぞ

廿五日

一井鳳梧　享保十六年辛亥七月廿五日没　年百十六　墳墓

高津
円妙寺

名克直敬斎と号す俗称桐助出雲人林[illegible]春斎
門人となり浪花に住し教授を門弟一千二百
人ありしとかや浪花に儒業を講することは
一井氏を始とす

寺井養拙　正徳元年辛卯七月廿五日没　年七十五　墳墓

下寺町
大泉坊

名子共志津磨の門人にして其書脉を顕す是れ
て世に養拙流といふ書に招牌を書をもつて
世に多し

書家
竹村雪磴　文化三年丙寅七月廿五日没　年六十三　墳墓

遊行寺
円成院

廿六日

三宅萬年　享保十五年庚戌七月廿六日没　年六十六

名正字は石庵京師の人浪華に住を儒業の名
家にて続近世畸人伝に出たりて河州神光寺に
墓所あり　畸人伝七月十六日没トアリ

桃山
十南部茶裡　文化四年丁卯七月廿六日没　年七十三　墳墓

北野
善通寺

墓碑には文化五年辰八月二日トアリテ
辞世ノ句ヲ刻セリ

国立国会図書館　タイトル『浪華名家墓所集』　請求記号 862-154

ガラス使用

廿七日

藤村正貞　享保十八年癸丑七月廿七日没　年八十四　墳墓　相坂一心寺

又正隠とも書き松杉堂蘭室と号し又風外庵と称す庸軒の次男或いは弟とも　浪花小経
し茶道の業を文庸軒に受けて世に鳴す

おりく重之墻晴死
宝永元年七月廿八日
五白崇竹林寺
歓了清信士
歓嗽清信女

墓碑ニハ七月十七日没トアリ

廿八日

永井如瓶　享保十六年七月廿八日没　年七十一　墳墓　下寺町源聖寺

名森宇政純如瓶子と号し走帆堂とも号す和気由貞の門人にして書家の名誉之著述の書に
徳華抄走帆堂筆帖直訓諸来読解あり

廿九日

新山退甫　安永四年乙未七月廿八日没　年五十三　墳墓　相学　谷町南天警寺

橋保春　文化十三年丙子七月廿九日没　年六十七　墳墓　高津久成寺

八月二日

八月

鬼貫　元文三年戊午八月二日没　年七十八　墳墓伊丹墨染寺

上島氏摂州伊丹の人槿花翁初めにして重頼の
門に入りて俳諧を学ひ十八九にして西山宗因
の席に交りて後一風流をおこして伊丹流と
称しける家業あまたありて法号仙林則翁居士
又百回忌に曲阜の立てし處の句碑墨染寺に有
浪花諸満にも碑ありて未俳人の立るといふ
詳ならす

三日

八千房舎梓　安永四年乙未八月三日没　年七十一　墳墓難波瑞龍寺

半時庵淡々に従ひ門人にして俳諧は名家なりて姓
坂氏深茂事と号す

四日

中井蕉園　享和三年癸亥八月四日没　年三十七　墳墓八丁目寺町誓願寺

名曾弘字伯毅號称内藏竹山の長子にして著述
の書仙坡遺稿一巻十賦ありて

五日

布屋半七 情孔
元禄十二年八月七日
東七八丁目寺代出
尼ハ井筒や抱妙
寺ニ在リ

筒井尚臺 文政三年庚辰八月五日没 一心寺

八日

俳諧 秋声館馬意 宝暦元年辛未八月八日没 法心寺

姓阿賀氏

九日

儒学 春田横塘 文政十一年戊子八月九日没 年六十一 墳墓

口縄坂 浄春寺

名走字有則

画 岡田米山人 文政四年辛巳八月九日没 年七十五 墓 弥津

直指菴

直指菴廃して民家となり 現今碑ハ東方良峯菴ニアリ 碑ニハ文政三年庚辰八月九日トアリ

十日

井原西鶴 元禄六年癸酉八月十日没 年五十二 墳墓 八丁目寺

町誓願寺

二万翁と号す 曾て一日独吟して二万三千句を吐く故に此名あり 俳諧の家書多し 宗因の門に入して松寿と号す 又難波俳林と称す 且世情に通じて戯作の冊子を数多作り 一時戯名を高くす 今日目前に見る事をとつて滑稽を主とし 西鶴ハ始めて此俳諧の流れをくみ 此人儒佛の業をも富て業力らず

出さんとせしハ余の試作者の乃ひ恥さあらんを
浪花読本町に名しく伝はらて碑面にハ仙皓
西皓と勒せ

十二日

入江昌喜　寛政十二年庚申八月十二日没　年七十九　墳墓
小橋梅松院
浪華の人俗称表助国家の名家にて著述の書
竹取物語補注和田津梅老湯唱和久保之取姥
美異名分類楸笠花燦棄葉手考仁徳天皇御本
朝地名考萬葉補闕ありて

奥田松斎（又尚）　文化四年丁未八月十二日没　年七十九　墳墓　寺一心
名元継字志季仙楼と号し又拙古社と号し播
州の人浪花に住せ儒学の名家にて著述の書
左伝釈例考増訂左伝評林左伝捷覧定本大学
左右指象十二律考幸挟梅花記雨好餘話清詩
選仙楼文章蔵魔燈ありて

十三日

鳥春嶽　文化八年辛未八月十三日没　年四十六　墳墓　東天満　寺念寺
名元新字世宝俗称太郎右衛門浪花の人にし
て画工の名家にて

十四日

佐々木志津磨　寛保元年辛酉八月十四日没　年五十六　墳墓
法村寺北

名春字季林号念翁子とも号す浪華に住し　松竹
堂とも号す京師の志津磨とハ別人

墓碑志津磨ハ俳人又書家念翁婿子トアリ此書季念翁子トスルトアル意不明
ナラス或ハ季念翁ノ子トナルヲ誤写セシナランカ

十五日

矢田長助　元禄十五年壬午八月十五日没　墳墓　上福島浄祐寺

矢田長助教照ハ赤穂義士の其一人にして古法
門七数菓の文形て落命にして復讐の時ニ至

られ其年の秋浪花にありて病死を惜む一し

由縁斎貞柳　享保十九年甲寅八月十五日没　年八十一　日
永田氏貞因の長子にして吉因とも浪花雑
居町に住し代々菓子を製するを以て業とし
尭花坊信海を師として狂歌をよくし後貞柳
と改む家書数多あり

十六日

如雲斎紫笛　安永八年己亥八月十六日没　年六十二　墳墓　二番村貞円庵
俗称新右衛門本端の門に入て狂歌を善くし

後一家をなし原来禪学を好んで後臨済派の
僧となつて拙堂と称し三番村貞円菴に住持
す著述の書あり
廿一日

穂積以貫　明和六年己丑八月廿一日没　年七十八

生玉
冷雲寺　（生玉ト冷雲寺トシ齢延寺ナリ）

能改斎と号し俗称伊助儒学の名家にて著述
に書唐土王代一覧経学要字箋世説新語補解
韻鏡反切捷径指南四書国字解五経国字解世
説国字解などあり

山本文竜　元文二年丁巳八月廿一日没　年五十七　墳墓

浜村墓地

名為幸孚大進と号し俗称十兵衛播州五百崎村
の人にして書の名家也
廿三日

竜渓禅師　寛文九年己酉八月廿三日没　年六十三　墳墓

九条九島院

近代禅僧の大徳にて寛文九年九島院に在し
時ならぬ巨濤天に翻つて院中にある禅師始め
も残りし壇上に端坐して水定を委しくし寂

四葉臨寺の碑文にみえたり

寛文十年庚戌ハ[illegible]ナリ此書九年トスルハ誤也

近松徳叟墓
谷町八丁目法妙寺ニ在リ
享年五十七歳

近松徳叟　文化七年庚午
八月廿三日没

初の名徳三浪花坂町の娼家大桝屋の亭主へ
俳諧を善くし且戯場を好みて松本二の門人
となりて歌舞伎狂言作者と成りて終に達作者と
成て著せし所の傳奇数多あり

廿六日

清川文七　刑死
元禄十五年八月廿六日
生玉寺町
日蓮宗正法寺
法交院順道日随
二十四才
清川八望十六年一

圭水
林明庵　文化元年甲子
八月廿六日没
年六十八
墳墓　二丁目寺町
中寺町　妙寺

月九日ニ病死之
雲谷妙恵信女
極印下ニ御本坊門　刑死
年月並ニ墓所相知ヲず
二十三才

廿七日

画師
桂宗信　寛政二年庚戌
八月廿七日
年五十六
墳墓　天王寺東
門清寿寺

初名雪典左司馬と称し後源五郎と改宗信
と称せり円山[illegible]門人にして画を能くし画本三
国志ハ宗信が描く所なり門人に桂三本女と
称する画師あり婦人にして春画に妙を得た
り

[illegible]
一瞻亭海棠　享和元年辛酉
八月
九月二日
墳墓　清水西坂
の下

二代目出雲ガ没年ハ諸説アリテ詳カナラザレド今京都生玉町青蓮寺ノ墓碑ニハ宝暦四年十二月四日トアレバコレヲ以テ確トスベシ

竹田出雲　寛保二年九月二日没

出雲ハ宝暦六年（月日不詳）ニ死セリ
千柳ハ出雲ノ名代忠臣蔵ハ寛延元
年ニ出来セシ故宝暦六年十月迄ハ数者ノ著作アリ翌七年ハ故出雲トアリ

二代目出雲にして千前軒と号し頗る文学あり
才あるに依て享保の頃より浄瑠璃を作る仮
名手本忠臣蔵を初め佳作とするもの数十種
あまた百余年の今に廃れずして浄瑠璃歌舞伎
にありて仕なさる　碑文ハ大西出雲の作にて

摂津名所図会ニコレハ寛保二年九月二日ニ死セシハ初代近江ノ子三四ヲ清英ト云ヒ又ノ號ヲ健ノ享保十四年十一月近江ト受領シタルモノデ出雲ノ兄ナルベシ出雲ハ名ヲ清定ト云ヒ宝永二年二月竹本座ノ座本トアリカクリ庵ノ近江トハ別ス

三日

書家
長友松　天明七年丁未九月三日没　年七十　墳墓　寺浦円妙寺

藤野一郎　天保二年辛卯九月三日没　年六十七　墳墓　上福島浄祐寺

初名環中日蓮宗の僧徒たりしが後浄瑠璃作を代
書の名家となる

辰岡万作　文政六年己巳九月三日没
浪花島之内鼈甲屋町に住して歌舞伎狂言の戯作
に名を得て著す所数番何れもおもしろく大当を
とりたりて評高し

四日

画師

岡琴岳　天保元年庚寅九月四日没　年三十九　墳墓　天王寺中

町龍泉寺

名敬俗称十三郎熊岳の男父に先ちて死

龍泉寺廃セテ墓ナシ今ハ天王寺山邦福寺ニ琴岳ノ碑アリ龍泉寺ヨリ
移セシカ未詳

七日

桃久　延宝五年丁巳九月七日没　宗達居士　墳墓　八丁目寺町

実相寺

十日

竹本筑後　正徳四年甲午九月十日没　年六十四　墳墓　天王寺南

超願寺

＊天王寺村の農夫にして五郎兵衛と称し生質

浄るりを好みて精練し若きより年を経るに一

流の新風を工夫し世に流布せしむ則ちこれを

義太夫節とて今に行はる世人の知る所

なり

十三日

鳥山輔門　享保十四年己酉九月十三日没　墳墓　難波瑞龍寺

儒学の名家にして香邦と号し俗称国之助芝

軒吟稿と題せし著述の書あり

豊竹越前　明和元年甲申九月十三日没　年八十四　墳墓

天王寺西門

浪花南放墟の庵と以ふ元祖竹本義太夫門人
後豊竹若太夫と改名一流をもふく故ニ竹本
と西といひ若太夫を东といひ義太夫芸術の
元祖なり称号を越前少掾と号く作る名梁塵軒と云

墓ハ高津本経寺ニアリ天王寺ハ紀功碑ナルべし

畫
鑑鉢魯庵　天明七年丁未九月十三日没　年六十六　墳墓

八丁目寺町
西涼寺

十七日

古林見宜　明暦三年丁酉九月十七日没　年七十九　墳墓

下寺町
禅林寺

名正温桂菴壽仙坊ホの号行を播州の人浪花
長柄町ニ住を近代の名医として浪華中興の
医家と作門人松下見林の著せる家の見宜略伝
に委しく見ゆるなり

十九日

竹田近江　享保十四年己酉閏九月十九日没

京ハ阿波国の人江戸に住せしが後京師に於
て唐繰人形を調進し初て竹田出雲と受領を
拝せしを後寛文二年浪花に於てもしきて機巧
戯場を創出て興行し享保十一年五月五日竹

田近江と受領を賜ふ是竹田からくりの元祖
なりき

没年摂津名所図会に載たる処では日し彼ハ二代目市川団十郎ト柏莚享保二年
四月ニ竹田近江出雲ノ丈ニ逢ふんてア其若キ処ノ老ノ年ニ訛たら疑ナヘし

画家
竹泉濃水　文政五年壬申九月十五日没　濱村霊北

廿日

茶家
青木宗風　文政十一年戊子九月二十日没　年五十六　墳墓
下寺町
宗専寺
習ふ所と号す

廿三日

片山北海　寛政二年庚戌九月廿三日没　年六十八　墳墓小橋中寺
町梅松院
字孝秩片猷と号し俗称忠蔵越後の人浪花に
住し儒業を教授す詩文に工にして性質著述
を好まず没後門人其詩文を集めて孤雲館遺
稿と号す

墓志ニヨレハ九月廿二日也又片猷ト号スト有リテ号ノ称ク明ナラズ
一名ハ猷字ハ孝秩トセハ可ナラン

書家
大江元定　寛政十一年己未九月廿六日没　年五十七　墳墓

廿六日

補閑雜記

廿七日

画師 長山孔寅 嘉永二年己酉九月廿七日没 年八十五 墳墓
天満寺町

孔寅字士亮紅園と号す平野郷中村に住せ頗る著物語を著す故ニ風の門に入て狂歌を能す狂名三條[illegible]彦

国学 南嶺子 寛延三年庚午九月 年五十三 京都に於て没せらるよ
了川東ニ妙寺ニ墓あり

姓ハ多田氏名ハ義俊字ハ[illegible]実又桂林斎と号す浪華の人俗称兵部といふ業を壺井義知に受けて学ふ國學故実者と唱ふ博識にして著述の書数多あり

画 大岡春川 安永二年癸巳九月 年五十五 墳墓
下寺町 光明寺

有元氏の子にして春卜の養子として家を嗣く名ハ春政能く家法を傳へ法眼に叙せ浪花に住せり

芭蕉塚 口縄坂梅旧院跋瑞龍寺より西所にあり又余下寺町北於もに碑あり又天王寺北の門外に句碑あり

桃青松尾氏伊賀國上野人風羅房と号し芭蕉
翁と稱す俳諧を業とし北村季吟に学び俳
諧正風体一家をなせり元禄七年甲戌十月十二
日没年五十三

十月二日

小野好古 宝暦十三年癸未 十月二日没 讀臺 口繩坂浄春寺
播州の人浪花に住す小野好古四十二代の孫
にして國学に達す著述の書和歌根元記あり

三日

十萬堂來山 享保元年丙申 十月三日没 年六十三 讀臺 相坂一心寺
小西氏初雅とて由平の門弟となり出藍の譽
高かりし二十に満すして業をたてゝ詞
宗となる又自ら漆と翁と稱しも老荘の風
ありて播南の今吉村に没す

尾崎雅嘉 文政十年丁亥 十月三日没 年七十三 讀臺 口繩坂春陽軒
蘿月と号す字ハ有魚俗称俊蔵浪花の人國学
に達し和歌をよくす著述の書群書一覧枕詞
補注古今集鄙言百人一首一夕話壺中顆林抄

松氏なりし

四日

紀海音　寛保二年壬戌十月四日没　年八十　墳墓八丁目寺町

宝樹寺

由縁有貞柳の舎弟にして浪花の人なり俗称

鯛屋善八と呼む曾て僧となりて

黄檗の悦山和尚に属し高節といふ後還俗

して滑稽家となる又契沖の門に就ひ敷国島

路観とも号し後文貞義とあらはむ紀海音ハ浄

瑠璃の作者にして豊竹座の操の作者となりて

近松とならひ称せらる

九日

井部圭眉　天明七年丁未十月九日没　年八十三　小島竹林寺

名ハ信成字ハ子篤正月堂と号す楷書の名家

にして大字を能くす

井上國貞　天和二年壬戌十月九日没　墳墓谷町寺町重願寺

新刀鍛冶の名家なり井上和泉守國貞といふ

後真改と更む浪花小人町に住す大坂正宗

と世に称せらる

刀剣書及墓志ニヨレハ十一月九日没ス

十日

加藤景範　寛政八年丙辰十月十日没　年七十七　墳墓高津法雲寺

竹里と号す俗称小川屋彦右衛門とて浪花の人和歌小道しるべ書を残して著述の書和歌実践集秘芳塵等数部あり

墳墓ハ以前ハ坂湖游ふとなり法雲寺ハ遺物据之

十三日

武村松軒　文化十四年丁丑十月十三日没　年五十三　墳墓生玉南童閣寺

俗称清造と代々和様の名家なり

本松氏の妻房子之木女と以へる也桂宗信の門人となりて画を善くす則ち桂之本と号す

十四日

心中　小春紙治　情死

享保七年十月十四日

網島　大長寺

釈了智信士

釈妙春信女

小野紹廉　宝暦十一年辛巳十月十四日没　年八十六　墳墓北野善通寺

一に紹簾と書す水門治徳の門人なりて銀竹堂と号す後一炊庵と称す俳諧の名家なり

香秀相二　文政二年己卯十月十四日没　年六十五　墳墓

口縄坂
浄春寺
浪華西横堀に住して整骨の医を業とし後一家
をなせり

十五日

丹羽桃渓　文政五年壬午
十月十五日没　年六十三　墳墓

生玉
円通寺

名元国字伯照　蔀関月門人にして画に工み也
諸国の名所図絵を多く画けり　浪花島之内本
挽中の町に住せり　活称大器　表に諸且狂歌を
好みて波丸の門人となり号を述稲と号せり

十六日

細合斗南　享和三年癸亥
十月十六日没　年七十七　墳墓

南田辺
法楽寺

名ハ方明字ハ離王又学半斎又太乙真人と号せり
甘谷が門人にして儒業に高名なり著述の書
二十三部　書目録続人物志に詳之

墓志ニヨレハ十二月十六日没也墓ハ京都黒谷ト甲山光堂ト法楽寺ト
三所ニアリ京師ノ墓骨ヲ分埋セシトエフ

十七日

橋本国　寛延元年戊辰
十月十七日没　年七十　墳墓　高津
久成寺

石井孝右衛門墓　岩所寺町大仙寺
延宝元年十月十八日没も
法名性誉以徳居士
此以徳山桃を書ふ参り
住大坂を未稿施工あり
の石ハ雅ま意也
とふ小記しおきし

後素彩ニ長じ浪華ニ住ミ探山の門人ニして
一家をなせり刻板の畫画ニ助を得しもの描く所
紆画本故交読訓素畫彙字宝鑑画典通考通宝
志謡曲志帯名梅直指宝この余尚多し

狂歌
如棗亭栗洞　寛政二年庚戌十月十七日没　年七十二
墳墓　千日法善寺

十九日

儒家
井狩雪渓　明和三年丙戌十月十九日没
墳墓　天王寺東國分寺
俗称長兵衛浪華の人

廿日

蛇玉菴子明　安永九年庚子十月廿日没　年四十六　墳墓
下寺町大蓮寺

曽谷讀驥　寛政九年丁巳十月廿日没　年六十　墳墓　小橋
天恵寺
名子唯印刻の名家にして儒学を片山北海ニ受
る以て著述の書古印彙印譜彙印藉考漢篆
千文字補遺等あり

廿一日

鄰関月　寛政九年丁巳十月廿一日没　年五十一　墳墓

お虎岩杉山中
寛永十九年十月二十三日ノ夜尾座鴨西諸翁
大和屋太市ト協二日リ
「浪花ノあし」ニハ法隆寺
中家仏隠ハ本人の其戦
ヲ兼リ今ニ石碑アリト記
セリ一説ニハ其中お添え
カノ墓トイフ

北中島本寺村
正通院

名徳基字子温俗称泉二浪花の人にして府岡
雪鼎の門人にして代画工の名家なりて山海
名産図会伊勢参宮名所図絵の二部は此人の
画く叙法楷

廿四日

書 菊川　明和元年甲申十月廿四日没　初代　墳墓　生玉法音寺

廿九日

武野紹鴎　永禄元年戊午十月廿九日没　年五十三　墳墓　堺南宗寺

初名は仲村新五郎一閑居士と号す宗陳宗悟
二居士に就て茶術を受京師北室の浦に宅を
構へて大黒庵と以ふ後堺の浦に移る珠光の
後茶家の宗匠とし

三十日

藤崎三島　文化十年癸酉十月晦日没　年七十七　墳墓
天満東寺町
天徳寺

名応道字安卿都州と号す俗称長左衛門儒学
は名家なりて著述の書草彙論画述意都州摘艸
放言堅纂集本あり

追加十月朔日

藪本三　嘉永二年己酉十月朔日没　年七十九　墳墓
八丁目中寺町
梅松院
名平字大年稽堂と号し古稀の後年史を修む
淡州福良の人浪花に来り堺筋南詰に住し儒業の
名家なり

十一月二日

半時庵淡々　宝暦十一年辛巳十一月二日没　年八十八　墳墓
難波村
瑞龍寺
松木氏難波の人一ニ小森と稱し其角の門
人く俳ニ詞宗と称する自号して勅筆蒔と称す

二代目竹田出雲ノ没年ハ前ニ記セシカ宝暦丁丑六年十一月四日ナリ年六十六才ト墓碑ニ記シアリ

俳諧の名家ニして当時の一風流異名都下ニ
鳴る家書多し

十一日

水野南北　天保五年甲午十一月十一日没　年七十八　墳墓
天満東寺町
法輪寺
近来相学の名家なり著述の書南北相法同後
篇相法修身録等行る

十二日

岳玉渕　寛政十年戊午十一月十二日没　年六十二　墳墓
高津禅林寺

国立国会図書館　タイトル『浪華名家墓所集』　請求記号 862-154
ガラス使用

岳氏名庸字孔庸九疑と号ス浪花の人にして
書の名家也

十三日

藤井三淳 享保三年戊戌十一月十三日没 年七十六 墳墓

生玉齋那寺内村 観音寺

初め瓶花陵娣青山侯に仕へ博く経史に通し篤
く理学を好む後に官を辞して南谷石蓮寺村
に隠居し名も常に医を以て業とし病者に薬を
与ふとも報を責ス貧民窮する時ハ施を与へ
て是を娯とし兄壽瞭恵懸頭人と厚しけるもの

服して父母の如くに敬ひしも其人の家に
招くといへとも多病をもつて往かす

十六日

戸田玄泉堂（書） 明和八年辛卯十一月十六日没 年六十八 墳墓

生玉 法音寺

十七日

福原五岳 寛政十一年己未十一月十七日没 年七十 墳墓

下寺町 源聖寺

名元素字ハ子絢俗称大助備後の人にして浪
花に住す 当時画工の名家にして大雅堂を師と

忌

廿二日

近松門左衛門　享保九年甲辰十一月廿二日没　年七十八

墳墓　谷町寺町法妙寺

姓ハ杉森名信盛平安堂巣林子と号す浄瑠理作者の名家にして古今無双の文者と以の匡し両ろく新村廣済寺にも墳墓あり

摂津名所図会に七十歳とあり然し氏馬琴ヶ覊旅漫録ニ近松ノ真人ノ賛ヲ載タル二平安堂近松七十一歳ト記アリ是ハ名許図会ハ誤ナルヘシ

廿三日

茶

多田宗楠　寛政七年乙卯十一月廿三日没　墳墓　天満東寺町長徳寺

二代目宗楠之号十友斎

廿四日

好花堂野亭　弘化三年丙午十一月廿四日没　年五十九

姓ハ山田氏案山子と号し俗称圭蔵花の人にして書家にして狂歌を善くし戯作を好んで著述し小説雑書浄瑠理など多く編纂せり俗利鬢して意気を以ぶ

三十日

法左郎　文化十年癸酉十一月卅日没　年五十四　墳墓　高津正法寺

天王寺西週郭の内ニ木像を安して天王寺ニ再建
せし時の世話才の棟梁として世ニ名高し浪花
島の内白銀町淡路屋ちゐを諱とせし

十二月四日

読東郭　宝暦十三年癸未　年七十四　墳墓北野
十二月四日没
寒山寺
姓ハ菅沼氏名ハ大簡字ハ子行文庵と称して浪
花ニ教授を著述の書論語徴疏学庸聞助声解
文會録鳴鳳集東郭文集などあり

谷川龍山　天保二年辛卯　年五十八　墳墓
十二月四日没

天満東寺町
宝緑寺
俗称順助浪花天満の人易学を真勢中洲ニ学
ひて名を得たり著述の書周易本筮指南円蓍
筮指南左国一家言易学階梯附言この余数
あまたし

五日

淀屋个庵　寛政二十年癸未　墳墓　谷町寺町大仙寺
十二月五日没
姓ハ岡本氏名ハ言當个庵と号して通称三郎太
湯つ文を常安と号して山城の人大坂ニ住せし中
ノ島を開拓して个庵家を嗣き大川町ニ住せり

梅川忠兵衛　墓所
宝永七年十二月五日
東高津かかり町　伝光寺
妙法了覚刹道　三十五
但し梅川ハ寛延年
間近ニ先立ち死

十二月

国立国会図書館　タイトル『浪華名家墓所集』　請求記号 862-154
ガラス使用

連歌抹茶を善くし詠画に工みなりき滝本房昭乗小堀宗甫佐川田喜六沢庵和尚と友とし善し又古今伝を源光寺祐也に受く曾孫なる古浦つなりて家従め世に所謂居五郎これなり

六日

画師
須賀蘭林斎　文化三年丙寅十二月六日没　墳墓　生玉南　玄徳寺

大口樵翁　明和元年甲申十二月六日没　年七十六　墳墓　八丁目寺町　妙中寺

名保為想軒と号す又書法為芳林菴含翠子殿

持ちの号あり茶人大西閑斎の弟子にして浪花の人なり筆跡に於て其名一時に盛なりき

七日

青木宗鳳　明和二年乙酉十二月七日没　年七十六　墳墓　下寺町　宗念寺

紫雪庵水蒲一侊子と号す薙髪して凡鳥と名く浪花に住む茶道の名家なり則ち表本に於初代なり

十日

書家
泉必東　明和元年甲申十二月十日没　墳墓　生玉南　菩提寺

蒹葭の門人なり

旧浦西可亭　文化二年乙丑十二月十日没　年六十九　墳墓北長柄葬地

十七日

海北若沖　宝暦元年辛未十二月十七日没　年七十七　墳墓小橋無量寺

若沖の門人にして国学に達し学相と号し浪花玉造の人著述の書和漢類函あり

十八日

岡公翼　天明六年丙午十二月十八日没　年五十　小橋寺北

にして詩を善くし世に名高し著述の書毛詩品物図攷あり又白洲玄達と称す河内の人浪花に住す

日本詩選浪花九十、ヨレハ玄達ニアラス尚達之

十九日

濱松歌国　文政十年丁亥十二月十九日没　年五十二　谷町天龍寺

浪花の人俗称布屋清七と称し内布袋町に住す歌舞伎の書多し元来歌舞伎の事に委しく後に狂言作者となる或ハ民助と号し諷々亭南水主人と称す

廿一日

画師
岡魚岳　天保四年癸巳十二月廿一日没　年七十二　墳墓天王寺中

所 龍泉寺

名嬰字少年俗称勝之助尾張坂に住す

龍泉寺廃シテ碑ハ邦福寺ニアリ

廿二日

浅田杏堂　文化十一年甲戌十二月廿二日没　年四十九　墳墓 高津法雲寺

名世憲字希菴浪花の人医術に達し画を福原五岳に学ひ其名世に高し且行書を能くす近代の名家なり

三勝半七　信孔
元禄八年十二月廿二日
千日前法善寺
釈霊月照信士
月空妙春信女

廿五日

竹内確斎　文政元年丙戌十二月廿五日没　墳墓小橋寺町 信長寺

名温俗称西右衛門浪華布屋町に住す篠崎三島の門人にして儒業に達し小竹室の八斎を著述す画を玉蘊譚河也不志譚あるも此人の作にして玉山の名を以て世に弘む

狂歌
一本亭負鯤　文政七年甲申十二月廿五日没　墳墓清水坂之下

長谷川紀隆　享保十六年辛亥十二月廿九日没　日本八丁目寺町妙中寺

俗称十郎左衛門

儒
富永仲基　延享寛延中の人　不知年年　墳墓　下寺町西照寺

浪花尼ヶ崎町に住す俗称道明寺屋吉左衛門
醤油を造りて以て業としは三宅万年の門に入
て儒道を学ひ又佛書を好んて常に読みて内
典の学甚委し著述の書出定後語説蔽未刊て

国学
山口日向　明和安永年中の人　不知年年　墳墓　天王寺中町東花鶯菴

龍雷神人ともいふ東生郡上の宮社神職にて国
学に達し著述の書假取盧日北事神秘訣中臣
祓旧伝神国女訓抄未刊て

儒
斤岡子蘭　安永天明中の人　不知年年　上本町

浪華祐鐘町に住し浪速十郎右衛門と言ふ儒学に精し著述の書芸香亭漫録岡子蘭文集等あり

儒
平賀中南 不知卒年 墳墓 東田山邦福寺

俗称宗右衛門広島の人にして浪華に出教授をなして松平伊豆侯に仕へ好古先生の号を賜る実に篤行の君子といひて伝し

書
江月庵 安永天明中の人 不知卒年 墳墓 谷町南 吉祥寺

俗称大蔵勘解由生玉神社の神官なりて明朝の書に達して古今に稀なりといふ

医
村上景吉 不知卒年 墳墓 八丁目寺町 大念寺

相長軒と号す俗称玄治著述の書瀉一条訓等あり

川上静庵 安永天明の人 不知卒年 墳墓 東田山湘南 邦福寺

臨江斎と号す浪華の人東横に住して国学に委し著述の書源氏物語断錦あり

儒
岡島竜湖 文化四年 年三十七 卒 墳墓 下寺町 西覚寺

名は標字は樸夫羽州秋田の人皆川淇園の門人浪花に於る周易及学庸を注せ

十時梅厓 不知卒年 墳墓 八丁目 正念寺

武藝
大江元春　不知年年　墳墓　天王寺西町

大江元庭門人給ミ五年摂州大和田の人

吉村周山　安永五年　辛年未知　墳墓　下寺町光明寺

名充興探仙叟と号し法眼位ニ叙し桂川充信門人にして一家をなせし名春卜と並ひ称せらる初名周次郎と称し根付を彫刻せしニ妙を得られし

幕術
松岡良助

浪花法蝶内門もにして幕術の達人なりし幕術警古大全を著述す

吉村周圭

法眼周山男

吉村周安

月岡雪鼎　天明六年丙子十二月　年七十七　墳墓

本寺村

名昌信號天籟と号し丹下と称す江州の人浪華ニ来りて堀町心斎橋ニ住す高田敬甫の門人にして浮世絵の名筆なりて後ニ法眼の官を賜ふ

国学
上田秋成　文化六年己巳　墳墓　京東山南禅松林西教寺

浪花の人曾根崎新地ニ住ス俗称東作俳ニ餘
斎と号し又無腸居士又鶉居剪枝畸人あり
戯号あり和漢の学ニ達し医を業とし和歌俳
諧をよくし且煎茶を好みて著述の書煎茶清
風瑣言戯作ハ雨月物語春雨物語聞耳世間猿
癖物語此余種ゝありて晩年京師ニ於て

戯作
椿園主人　明和安永頃の人

浪華の人俗称姓名詳ならす風流閑雅ニして
頗る小説の風ありて博学なるよし支那の稗等

ニ貴きて後年伊丹の郷ニ住せしとぞ著述の
書坂本忠義伝両剣奇偶今古奇談萠草今古説
唐錦女水滸伝等ありて

狂画
耳鳥斎　寛政五年

浪花の人京町堀ニ住ス俗称松屋平三郎と云
初メ酒造家後骨董舗を業とし鳥羽絵ニ古澗
の間を学んて狂画ニ達し大ニ雅致ありて一家
をなしれ且滑稽の才ありて戯作をなし義太夫
のちやて浄瑠璃の名人と

儒
道路行者　寛延宝暦明和頃の人

名庭鐘字公声大江漁文と号しまた辛夷館と
称し近路行者ハ千載子と号す俗称都賀六浪
華の人にして儒を業とし書画を能くし風流
此才ありて小説稗史の趣を得て英艸紙繁
ミ夜話垣根艸古江漁唱華萼館集

一説ニ天明九年二月四日
死去とアリ年九十九
生玉藏延寺ニ葬トアリ

近松半二　天明七年丁未

（戯作）

浪花の人儒家穂積以貫が三男にて戯作を好
んて浄瑠理作者となり門左衛門に若年より
了を松の氏を称し著はす所の叢数千種ある
り終其見ゑ

並木宗助　寛延年間没

（旧）

浪花の人浄るりの並木竹田の作者にして
著作ミたる爰清和源氏十五段摂津国長柄の人
和田合戦女舞鶴釜淵双級巴一谷嫩軍記ホ何
も妙作なり

並木丈助

浪花の人にて宗助の門人にて浄るりの作者
人著はす所須磨布西海硯と撰ぬ刈萱桑門筑
紫轢姿競出入湊東鑑ホ持参摂州渡辺橋供養
八重霞浪花濱荻ホにて稀中二の八重霞を寛

延二年三月十八日天満砂原のかしくと云妓
此情死に神崎の大坂屋本の三ッ日目に是の
ありしを直に作て二十日に外題を出し廿六日
に初日を出して古今の大当りにて同年七月
比まて興行をしける此人の手柄といふへし
尚浄るりその作のみならす歌舞妓狂言作を
もなせり

評伝
並木永助

浪花の人宗助の門人にして丈助同時の作者
なりて著せるもの相馬太郎萌文台天智天皇
刈萱桑岸姫松轡鑑等の浄るりあり歌舞妓の
作をもなせり

ロ
司馬芝叟

俗称芝屋勝助元ハ肥前長崎の産にして母を
円山の妓女又ハ来舶の清人なりとぞ儒にあ
らは医に行ふは一時の人なりき享和のころ浪
花に来て浄るり并作も箱根霊験躄仇討新
吉原瀬川仇討なとの又読本をも著述して歌
舞妓狂言をも作て大に世話として小説稗史を
はしめて名を諱するを流行させて

竹田小出雲

千前軒竹田出雲の男也浄るりの佳作少からす
も就中新うす雪物語軍法不二見西行日高川
入相花王夏祭浪花鑑等世に名高し

三好松洛

原ハ伊豫國松山城外の真言宗願成寺の住持
なりしを還俗したりて竹田千前軒の門人となりて合
作の浄るりに佳作おほし明和八年作る處の
妹背山婦女庭訓の浄るりあるに松洛七十六才
なり作とあれは頗る長寿なりしなり墓所未詳

軒門人松田和吉文耕堂と号す吉田冠子とも云
ハ人形つかひの名人吉田文三郎の事にして
かのし出雲に従ひし有名の作者なりき

戯作
錦文流

浪花に住して座摩の社辺に住居せしを以て俗称審
るなるにいふ常に戯作をなし又浄るりをも多作
せ錦頂子と号せ

画
石田玉山

初玉峰法橋玉山の門人浪花に玉山と號せし本
は岳亭に述べし清正真伝記不知火草紙双

絵長柄長者黄鳥墳を余許多画かく

儒 高安莊次郎

芦の屋と号す浪花の人著述和漢年契於會節
用集等之

画 一峰斎馬円　文化七八年 三月没未詳

原東武の人葛飾北斎の門人にして始め了遠
と号し浪花に来て大岡森蔵諸の養子と成て
亀山町後藤やしきに住す後更名て馬円と云
俗称をも之名由平後藤二と更む小説刻本の表
画とかなし

戯作 五島つう

姓諸田氏俗称勘兵衛浪花天満南同心町に住す
東作組同心也好て小説の著述和漢諫分宇治斉
聞尚を餘あり

同 雨香園柳浪

浪花南本町に住す馬田昌調と称す医師を業
とす京九州長崎の人にして画師玉山に親鮮
人の号をなつし人形て司馬芝叟の述話あき
うた絵小説に著述し其不知を帥絵等の戯作
あり

佐藤魚丸

浪花の人阿波座堀島町に住す國丸の門人に
して狂歌をよくし蝙蝠軒と号す自禄の狂歌
集あまた曾て浄るりの戯作を好んで多く著述
せし作者を惟良なりと云

画 流光斎　文化

浪花の人浮世画をよくし俳優の肖像を能
く描き名ハ如圭俗称詳ならず堀江龍橋に住
し後難波新地東横町に移住すと云

画 松好斎

浪花の人俗称幸之清為と内清水町に住す浮
世絵をよくし又俳優の肖像を模写するに巧也
且戯作をもなし画く所の印本数多あり実に
其世の名家なりき

岡田玉山

浪花の人名ハ尚友法橋に叙す画に巧なりき
唐土名勝図会絵本太閤記玉藻譚阿也可志物
語其余画く所の本多し

書 島飼宗慶

島飼氏摂州島飼の人書法は家流にして出一家

となれは世に香嗣流といふ

竹堂　日　元文中没

姓ハ東氏名ハ淮光青雲斎と号す平安の人浪花に住す門人四千余あまり

興蒙所　宝暦

興氏名先鐘字中連俗称新兵衛号蓮池堂の后浪花に住す其書唐人に擬ふといへとも別に一家をなせりもつとも篆書を善くす実に古代の能書なりそれ浪花の書風此人よつて一変し此流多と学ふ人多し裏蕨山人泉石東菴嘯散木真漁

おのゝ此門人也

儒　木戸由巳　延享

名元春字純仁儒業に達し浪華に教授せ

日　加藤良高

名字未詳俗称権を浦播州七津の人

画　多賀子健

流光斎の男画に巧にして惜むへし壮年に没

朴仙と号す

森徹山　天保十三年辛丑

名守真字子玄淀屋中嶋に住す

篠崎小竹　嘉永四年五月八日　辛亥　年七十一

名弼字承弼畏堂と号ス詩文ニ達ス書を能ス

実ニ当世の大家也

華 松峰　嘉永四年辛亥十月廿日没　年六十二　生玉月江寺

名ハ伯孝 桃渓門人生花をよくし松真斎と号ス

そ

茶家 花月庵　嘉永元年戊申八月廿二日没　年六十七　来迎山南郵福寺

名孔と云 姓田中名元長浪花の人

画 上田公長

字有秋 月渓門人 実ハ景文ニ画法を受ク

仝 公圭　公長之男　安政七年庚申九月十三日没

画 浦川公佐

上田公長門人浪花高津内周防町ニ住ス 俗称播广屋佐兵衛

田中秋亭

公長之門人 安政年新清水西坂之下

書 森晋三

書医 鄙関平

名徳風字子儀又蒹揚斎と号ス 立売堀壱丁目

ニ住ス 関月男

國学
一時軒惟中
國西武書古丸を好む又俳諧を善くし

仝
森川安範
著述文殺解あり

書
小杉平太浦門　人左と称ス

仝
峯岸慶造

画
鶴澤探山　右自信浪花ニ住ス
探幽ニつく

大須賀陶山

越島斎

尾崎雪山

瀏山旭江

長山孔直　文久二年壬戌正月二日没　年六十
孔寅の門人ニして後竹外と游む

松浦大䕺　安政年九月没
医を業とし詩文ニ達し

画
木村行石
名徳字子順俗称六蔵今宮住

挹芳斎國雄
宇國門人俗称飛座平十郎號天高と号し描く
新元詩品物図攷挹芳斎画譜刻本世ニ行はる

高田七郎兵衛
井上忠藏
内田源兵衛
柏新藏
水ト筮之尾雄琴
名思龍俗称庄助備中の人浪花ニ住ス中華竜
ト考日本亀ト考ル余数種ヲ
森川兎毛
浪花ニ住ス文政中没ス
土屋権之丞

些菴月居
浪花ニ住ス京師ニ遊ブ東山金福寺ニ葬ル
尾藤二洲
名肇字士尹良佐ト称ス浪花の人寛ニ住ス
頼春水
名惟寛字千秋春山社ト号シ又偏性理學ト号ス
俗称弥吉ト浪花ニ住ス
芝立安正　明和
字伯成栗菴ト号ス浪花ニ住ス
山中道德

国立国会図書館　タイトル『浪華名家墓所集』 請求記号 862-154
ガラス使用

凡鳥とも云又光謝酒池とも云ふ浪花の人

本莊宗敬

名正路浪花の人一に宗磨に作る茶法を沂師

宗遇に受る

前川由平　宝永年没

井原西鶴門人俳諧に達し後年秋門に入て月

入とも云ふ摂州北野村に没す

（俳）大江丸　文化二年　年八十八

大伴氏旧国とも云ふ浪花の人蕪村門人

（仕分）行風　浪花の人生白とも云ふ

（香）大枝流芳

浪花の人雅遊漫録貝盡浦の錦此余香道の書

多し

（画）森春溪

名有煌字仲光浮世小路に住す

（書）福原東岳

名業之字季旃御爰袁門に住す

（書）大野東邸

後年丸亀に移住して没す

（雑俳）山名春六

松花屋錦之

井眉菴

吾春荘と号した内淡路町心斎橋東

月本菴之浦人

八木巽慶

名走廸字孟卒

松井羅洲

浪花の人

鎌田環斎

片山北海門人浪花の人

津田誠前

元和以来の鍛冶にして井上真改と雁行せし

五十川金雪

俗称平助后七と謂高家中と為に住せし詩文ニ
達し文人画家に交りて風流に耽りし数年
名ハ正緒万延二年辛酉三月三日没五十三下
寺町大蓮寺

篠崎竹陰

小竹の胄也儒業を継詩文に達した安政五年戊
午八月没年五十余天満東寺町天徳寺

詩 佐々木魯庵

名鳳字子岳龍公美門人京師の人浪花に住ス

著述魯庵詩集あり享和元年没

野 奥山小山

儒学の名家にして詩文及書をよくス安政五年八月廿日没ス享年五十九天満西寺町円通院

僧無相

著述歴史韻鏡此余数種あり

僧鉄山

字黙隠常足と号ス初森修来と称して素所の門人なり常に篆文を書ス又画を能くす浪花に住て古篆論語を著ス

俳分 一楮亭呆雲　〃鰭丸　魚尾庵

〃東北庵麻丸　〃河丸

〃三日坊雛丸　〃石丸

〃梅々屋宣丸　〃雅丸

〃玄島舎楳丸　〃冬丸

〃一文舎銭丸

河丸の門人

画 雪操

江戸の産大坂上町に住居文人画に巧みにして
も名世に鳴る

狂歌 揚李楼揮友

俗称木屋市郎右衛門浪花江戸堀に住居老安

梅北法東

画 桃李園栗窓

名眉元字武民遠々菴と号ス俗称長格間右衛
門

霞ヶ屋手佐丸

所里氏谷町に住居狂歌に巧みにして世に鳴
る原摂州桜井谷の住老年大坂にうつる没年
八十

書 浅野高之 三

狂歌 後鉄格子獨醉

西浦周蔵立売堀二丁目狂歌及詩をよくす

画 徒我菴市丸

柳斎重春

浮世絵師俳優の肖像に工みにて当時の人俗
称山口甚次郎と云世の名人

濡
兼康百済

名元捷字孟美浪華本町心斎橋西に住す其先
東武にあつて故ある浪に住する時渡辺大夫
と号すは原渡辺筋久太郎町に住せしをもつて
なりと云

和多田
村田嘉言

吉蔵と号す又古岳俗称治七生玉に住す
春門の男

藤村新吉

名藝字九畹獅山と号す本町三丁目に住す

牧亭笛丸

狂歌に工みにして鉄格子波丸の門人なりし後
鬼拉亭力丸の文台を譲る安政三年丙辰四月
没す

吉川松谷

江州彦根の産中年大坂に住没す

壺中庵梅子丸

俗称小山忠兵衛藍州と号す三日坊離丸の門
人にして狂歌及狂詩を善くす

芦丸屋

姓松永氏名琪淡路町に住せ

木村石居
名孔陽字世輝俗称吉右衛門蒹葭堂男

岡田半江
名粛字子羽俗称彦兵衛北船住弘化三年丙午
二月八日没享年六十五米山人の男東京津良
李菴

佐藤奥右
名益之字士朗京月渓の門人一家をなせり

林文波

名直之方洲と号す初関月に画を学び后藍江
と師とす弘化二年乙巳三月十六日没年六十

石津亮澄
冨草屋と号せ

鎌田叢松
祖仙の門人后に藍江に画法を学ふ安政六年
七月廿八日没年六十二

井上鶴洲 易家相
名教親字和卿主殿と号す中の島淀辺構東

宮本君山 画

名政璵字伯風備中

松本靚山

名春清字士朗月渓の門人

鈴木寛祐

字仲舒春伯と号す

後藤象山

名機字世猷元治元年甲子十月十九日没天満

東寺町天徳寺

加藤圓治

名矩直字宗叔美の人岡白駒か学ぶ天明中没

立十余

友渕宣卿

字伯明祝岩門人浪花の人

龍渕

養拙流天保中没す

末生裔

末生流花道の達人文久元年辛酉七月十四日

没す

武田篤之進

箏御の名家ふしてを一家をなす世ふ武田流と

称して著述の書世に行はる　無量寿称主計正著

真元華法三巻

暁晴翁　安政七年庚申十二月十九日没　年六十八　西成郡大仁村　正楽寺

雑録の著述家にして其名世に鳴る初鐘成と号し後暁晴翁と改む一に雞鳴舎或ハ未曽志留坊一禅と試号を著述の書多く世に行はる後年難波鉄眼寺前に住を移し旧北福井町に没す西国三十三所名所図会東山名所図会摂津名所図会大成淡路名所図会小豆島名所図会其余枚挙するに遑あらず

二世　暁鐘成　天満西寺町　妙香院

二世暁鐘成ハ初安部芦友と号す戯作を好んて暁晴翁の門人となり後鐘成と改号す安政七年庚申閏三月十七日没年四十三薬種を業として故ハ本医高と号す江戸堀五丁目に住す

此書曉晴翁半成の遺書にして後人追加せし字あまた識別せらるゝ手書の稿本浪華書肆鹿田松雲堂静七此所蔵なりしを我友某特借して之を謄写し原稿と併せて余作奎運堂邸に托せしが本年一月九日彼宅は此際烏有に帰し遺憾少なからずさりし適々京都富岡氏鉄斎謄本ありと聞き紹介を求めて借覧せしことを得て再写させて原稿書名あらざりしは浪花名家墓所集と以て之を題高氏は今より所わ干時明治廿七年甲午七月下澣也岡本和

862
154

19808

国立国会図書館　タイトル『浪華名家墓所集』 請求記号 862-154

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『浪華名家墓所集』　請求記号 862-154